



令和5年度 学力調査ならびに体力テストの結果のお知らせ

校長 工藤 智昭

今年度の学力調査ならびに体力テストの結果をお知らせいたします。調査結果をもとに、本校児童の学力の向上ならびに体力の向上に向けた授業や取組を実施していきます。以下は、学力調査の結果ならびに考察です。（体力テストについては別紙に掲載しています。）

<国語> 6年生 全国学力・学習状況調査（4月18日実施）

○学習指導内容（正答率 単位％）

	知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語全体
中西小	79.0	87.8	46.7	79.4	80.0
東京都	70.0	73.5	28.9	73.2	69.0

○問題形式（正答率 単位％）

	選択式	短答式	記述式
中西小	85.0	81.7	63.3
東京都	75.9	66.4	51.4

※網掛けの部分は、東京都の平均と比較し、本校の平均が上回った項目です。

<考察>

国語全体の正答率は、すべての項目において都の平均を上回っています。日々の学習の基礎・基本がおおむね定着してきていることがわかります。しかしながら、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の内容をそれぞれ考察していくと、上段の学習指導内容の項目「書くこと」と、下段の問題形式の項目では「記述式」の正答率が他の項目より低くなっています。これは、本校のみならず、現在の児童の状況を示す大きな課題であると考えています。

<改善に向けて>

ICTの活用により、タブレットでの学習が定着し、ICT機器で文書を作成したり、スライドなどの資料を作成したりする力がついてきていますが、実際に鉛筆を持ち、相手に伝わるような文章を書くという機会が少なくなっているのも現状です。国語の学習においては、今一度、文章をしっかりと読み、主旨をしっかりと理解するとともに、自分の意図することをわかりやすく文章にして相手に伝える（鉛筆でノートや原稿用紙等にとしっかりと書く）ということにも重点的に取り組んでいきたいと考えています。

<算数> 6年生 全国学力・学習状況調査（4月18日実施）

○学習指導内容（正答率 単位%）

	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	算数全体
中西小	79.4	68.3		85.0	77.2	77.0
東京都	71.0	54.8		75.8	67.3	67.0

○問題形式（正答率 単位%）

	選択式	短答式	記述式
中西小	75.0	86.9	62.9
東京都	63.2	74.7	47.3

※網掛けの部分は、東京都の平均と比較し、本校の平均が上回った項目です。

<考察>

算数でも、すべての項目において都の平均を上回りました。国語と同様、日々の学習の基礎・基本がおおむね定着してきていることがわかります。しかしながら、「記述式」の正答率は他の項目よりも低くなっています。

<改善に向けて>

算数では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」とそれぞれの領域ごとに知識や技能、思考力、判断力を身に付けていきますが、国語と同様、記述式の正答率が他の項目より低くなっています。これは計算などの基本的な技能をもとに、問題が求めていることを的確に読み取り、多面的な見方や考え方を用いて、言葉や式を使って表現する力を身に付けていくことがさらに必要といえます。そこで、文章問題等における的確な問題文の読み取り、順を追って論理的に説明していくための、授業内での児童交流を積極的に取り入れていきたいと思ひます。

令和5年度 体力・運動能力調査(1年生～6年生)の結果のお知らせ

練馬区立中村西小学校

6月に体力運動能力調査として「体力テスト」を実施しました。区の平均値と比較し、本校の結果についてお知らせします。
また、個人の結果については、児童を通じて配布いたします。

1 体力合計点の平均比較 【実施学年】 1年～6年 【実施日】 令和5年 6月

学年	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
男女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本校	30.3	27.8	33.8	36.2	41.5	41.2	47.2	47.7	52.9	54.5	60.9	56.7
練馬区	29.1	28.3	36.1	36.0	41.5	41.6	47.0	47.4	52.5	53.9	58.3	59.0

※網掛けの部分は、練馬区の平均と比較し、本校の体力の合計点の平均が同等もしくは上回った学年です。

2 測定種目の平均比較

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
握力(kg)	10.6	9.3	10.4	10.6	11.2	10.6	14.5	13.5	19.2	17.3	19.8	19.4
区平均	8.8	8.1	10.5	9.9	12.1	11.5	13.9	13.4	16.0	16.0	18.8	18.9
上体起こし(回)	12.1	9.2	11.7	12.2	16.3	14.4	17.8	16.1	18.9	18.2	22.9	18.3
区平均	10.9	10.3	13.8	13.1	15.5	14.8	17.3	16.4	19.3	18.5	21.0	19.5
長座体前屈(cm)	25.0	25.3	23.2	26.5	29.9	30.8	29.9	32.1	33.9	36.6	38.5	38.4
区平均	25.7	28.2	27.4	30.4	29.6	33.1	31.1	35.5	33.9	38.6	36.4	41.8
反復横跳び(回)	26.3	24.7	28.5	26.9	30.2	29.0	33.9	33.5	38.9	37.7	41.9	37.4
区平均	26.5	25.3	30.0	28.7	33.1	30.9	36.4	34.4	40.3	38.6	43.7	41.0
20mシャトルラン(回)	18.6	13.7	23.0	20.6	34.4	23.1	37.8	27.8	43.9	34.2	51.9	31.3
区平均	16.9	13.4	25.0	18.8	31.6	22.6	38.2	27.4	45.6	33.6	53.0	38.0
50m走(秒)	11.5	12.1	10.4	10.3	9.7	10.1	9.5	9.9	9.1	9.3	8.3	8.9
区平均	11.5	11.9	10.6	11.0	10.1	10.5	9.6	10.0	9.3	9.6	8.9	9.2
立ち幅跳び(cm)	113.9	108.3	119.8	113.4	131.0	121.5	137.0	135.7	148.2	146.7	164.7	148.4
区平均	112.7	103.0	122.3	113.9	131.7	123.1	141.0	133.3	149.9	142.5	161.5	151.4
ソフトボール投げ(m)	7.8	5.2	10.0	6.2	12.6	8.4	17.1	10.3	20.6	12.3	25.0	14.2
区平均	7.2	4.9	10.3	6.7	13.3	8.4	16.4	10.4	19.9	12.3	22.9	13.9

※網掛けの部分は、測定種目の平均を練馬区の平均と比較し、本校が同等もしくは上回った種目です。

「体力調査」では、走・跳・投等の基礎的な運動能力を測定すると共に、それぞれのテスト項目で、基本的な体力要素となるスピード、全身持久力、瞬発力、巧緻性、筋力、筋持久力、柔軟性等についても評価します。

テスト項目	基礎的な運動能力	体力要素	運動の特性(体育の学習等で高めていく力)
50m走	走	スピード(すばやく移動する能力)	すばやさ・力強さ
20mシャトルラン		全身持久力(運動を持続する能力)	ねばり強さ
立ち幅跳び	跳	瞬発力(すばやく動き出す能力)	力強さ・タイミングの良さ
ソフトボール投げ	投	巧緻性(運動を調整する能力)	タイミングの良さ
		瞬発力(すばやく動き出す能力)	力強さ
握力		筋力(大きな力を出す能力)	力強さ
上体起こし		筋力(大きな力を出す能力)	力強さ
		筋持久力(筋力を持続する能力)	ねばり強さ
長座体前屈		柔軟性(大きく関節を動かす能力)	体の柔らかさ
反復横跳び		敏捷性(すばやく動作を繰り返す能力)	すばやさ・タイミングの良さ

3 分析と考察

<本校の結果から見えること>

(1) 体力合計点

今年度の本校の体力の合計点数は、区の平均を若干上回る学年が多く、学校全体としては区の平均よりやや高いレベルにあり、昨年度より体力の向上傾向にあると考えます。しかしながら、測定種目毎の平均比較を見てみると、多くの学年で区の平均を上回ったものや、逆にほとんどの学年で平均を下回ったものなど、測定種目毎に見ていくことで本校児童の体力の特徴が見て取れます。これらを精査しながら、それぞれの学年で体力の傾向について詳しく把握し、今後の取組に反映させていく必要があります。

(2) 本校の体力の傾向（各測定種目の結果から）

①区の平均を上回った学年が多い種目について（握力・ソフトボール投げ・50m走）

○握力

高学年で区の平均を上回る傾向が見られました。校庭などの遊具につかまったりぶら下がったりしながら遊ぶ経験の積み重ねや、体育、体育活動での運動経験が握力の向上につながった要因ではないかと考えます。今後も外遊びの励行や、器具や遊具を活用した運動経験を増やしていきたいと思います。

○ソフトボール投げ

ソフトボール投げは上学年の多くに区の平均を上回る傾向が見られました。投げる運動は経験に大きく左右される面があるので、上学年では、体育や休み時間に投げる経験が多いのだと思います。低学年でも意識的に投げる経験ができるよう体育指導の工夫をしていきたいと思います。

○50m走

ほとんどの学年で区の平均と同等もしくは上回る結果となりました。普段の体育指導のみならず、広い校庭で思いっきり走り回って遊ぶ児童が多いことが好結果の要因の1つであると考えています。

②区の平均を下回った学年が多い種目について（反復横跳び・長座体前屈・上体起こし）

○反復横跳び

反復横跳びは昨年度同様、すべての学年で区の平均を下回る結果となりました。これは本校児童の体力向上にかかわる大きな課題と捉えて取り組んでいかなければならないと考えています。反復横跳びは素早さとタイミングの取り方（運動のリズム）が必要な運動なので、児童にこれらの要素を多く取り入れた運動を経験させていきたいと思います。

○長座体前屈

多くの学年で区の平均を下回りました。昨年度より低下傾向が見られます。学校で体育の学習において児童の柔軟性を高める取り組みや活動を増やしていきますが、ご家庭でも柔軟性を高める簡単なストレッチや柔軟運動は行えますので、取り組ませていただけたらと思います。

○上体起こし

上体起こしは腹筋力と筋持久力を必要としますが、本校のデータからは、全体的にその力が不足しているところが見られます。運動経験の不足が起因しているのではないかと考えています。準備運動や体づくり運動の中でこれらの力が高まっていくような運動を取り入れていきたいと思います。

③その他の種目について（20mシャトルラン・立ち幅跳び）

○20mシャトルラン

20mシャトルランについては、本校では低・中学年で区の平均を上回る傾向が見られます。全体で見ても昨年度より、若干の上昇傾向が見られます。コロナウイルスの影響が少なくなり、日常的に継続して運動に取り組む時間が増えてきたこともこの要因の1つだと感じます。更に持久力を高める運動や取り組み（持久走や縄跳び旬間等の充実）を検討していきたいと思います。

○立ち幅跳び

立ち幅跳びについては、学年・男女により結果にばらつきが見られます。立ち幅跳びは瞬発力とタイミングが重要な運動でその動きを遊びの中で経験することが少ないので、今後の体育指導の中で、児童にこれらを意識させながら運動に取り組ませていきたいと思います。

<体力向上に向けた取組>

児童の体力の向上のためには、運動（遊び）の日常化、体育指導の充実、様々な体育的活動の充実（その実施に向けた練習等の取組）が重要です。本校では、児童の更なる体力の向上を目指して以下のような取組を行っています。

①本校の施設（遊具や中西山）を活用した運動遊び（外遊び）の励行

②体育指導の充実（児童の巧緻性を高める運動・腹筋力、筋持久力を高める運動への指導の重点化）

③体育的活動（持久走・なわとび旬間）の充実

<ご家庭の皆様へ>

体力は健康的な生活の土台があり、その上で計画的に、継続的に、意欲的に運動行っていくことで体力は高まっていきます。ぜひ、各ご家庭においてもお子さんと一緒に規則正しい生活習慣に向けた取組について考えてみてください。

また、秋はスポーツをするのに最適な季節です。お家の人と一緒に運動することで子供たちがより一層運動に興味をもてるようになるというデータもあります。保護者の皆様もお子さんと体を動かしてみてください。